

## 愛媛教職員組合研修会 「えひめ夏物語」

2017年7月29日(土)、愛媛県宇和島市吉田町立間尻の「教育集会所」で研修会を実施しました。参加人数が少なかったにもかかわらず、宇和島市吉田広域隣保活動相談員の宝本志保さんをはじめ、みんなで5人の方に出迎えていただきました。

研修の内容は、フィールドワークと講話で、人権意識を高め、明日へと繋がる研修会になりました。

### <フィールドワークの様子>

塀際に人間一人分の線。この内側が昔の道であることに驚きました。残りの広い部分は、かつて川だったそうです。土地改良で道が広がりました。

1945年の空襲の時に避難したトンネルでは、真ん中には川が流れています。板を引き渡して、ここに住民が肩寄せ合って家が再建されるまで避難生活。当時の大変さがしのべられます。現在はみかん栽培が盛んです。



### <講話>

太平洋戦争の末期に空襲にあい、米軍機の植物油をつめた焼夷弾でほぼ全戸焼失した。火災でトンネルに避難。「阿弥陀如来様が焼けてしまう。」「今なら間に合う。」燃えている建物から阿弥陀如来像を救い出した。

戦後も大切に守ってきて、今でも毎日、みんなが交代で世話を続けている。この如来が私たちの心の拠り所。

国鉄の2つの鉄橋の中心を流れている川に板を渡し、むしろを敷いて避難生活をし、共同作業所や家を1軒ずつ総出で再建し復興していったそうです。苦しい時は、みんなで助け合って生きてきたのです。

★ 昼食は、和歌山の部落から送られてきた油かす入りのうどんをお出ししていただきました。



油かす入りのうどんと  
さいぼし(馬肉の燻製)



乾燥した油かす

#### 《参加者感想》

- ◆ 「教育集会所」の活動で地域の子どもだけでなく、地域外の子どもも参加しての子ども会の紹介がありました。活動の様子が掲示されていて、教育に力を入れているのに感動しました。
- ◆ 風光明媚な場所ながら、差別と闘いながら生き繋いできた先人の足跡が、地域の子どもたちの誇りとして受け継がれていることに感銘を受けました。被差別の立場に置かれた人たちの生き方にこそ、私たちが学ぶべきものがあることに改めて思いを致しました。
- ◆ 現地を歩いて、被差別部落の実態を実感できました。空襲から阿弥陀如来像を救い出したこと、毎日地区の人が交代で世話をすることで、部落の絆を高めていることに感銘を受けました。プラスの出会いを意図して、全ての小学校がフィールドワークをすることをしていることが進んでいます。油かすうどん、大変おしかったです。『部落はグルメだ。』の宝本さんの言葉に納得。

## 子どもたちと教職員の生活を守るため、共に考えましょう!

私たち愛媛教職員組合は、年に数回、研修会(研究会)・交流会を開催し現場での力量を高めています。ぜひ、ご参加いただき共に学びましょう。

質問や感想がございましたら、お気軽にご連絡ください。

TEL(089)924-4546 / FAX(089)924-4403 / e-mail [jtuehime@lime.ocn.ne.jp](mailto:jtuehime@lime.ocn.ne.jp)

HP <http://jtuehime.sakura.ne.jp/>

愛媛教職員組合 書記長 堤 剛

